カンタベ リークライストチャーチ大学　2024年9月～12月 / 英語学科2年

留学によって得た経験やスキルを活かせる仕事に就きたいです。

【学習面】

リスニング、リーディング、スピーキングが伸びたと感じます。留学前はスピーキングが苦手だったが、授業で発言するのを意識していたこともあり、旅行先などで初めて会う人とも英語で会話できるようになりました。また、授業の復習を通して新しい単語や表現を身につけることができました。表現や単語を学ぶだけでなく、様々な分野の歴史や背景についても学び、他者との意見交換を通じてコミュニケーション能力を高めることができたと思います。

【生活面】

日本とイギリスでの生活の違いを多く見つけ、自分の当たり前は他人の当たり前ではないことを学び、受け入れることができました。日本の文化とイギリスの文化、それぞれの素晴らしさを実感することや、日本の生活での疑問を見つけることができ、学びの幅を広げることができました。

【安全面】

スリは日本では滅多に遭遇しないため、留学期間で一番意識して生活をしていました。実際に友人がロンドンでスマートフォンを盗まれていたので、自分なりに対策をしていました。

また、イギリスはホームレスも多く、道を歩いている時、友人とお店で食事をしている時、電車に乗っている時に「お金ください」と声をかけられることがあったが、無視をするか、きっぱり断るようにしていた。

【学修成果】

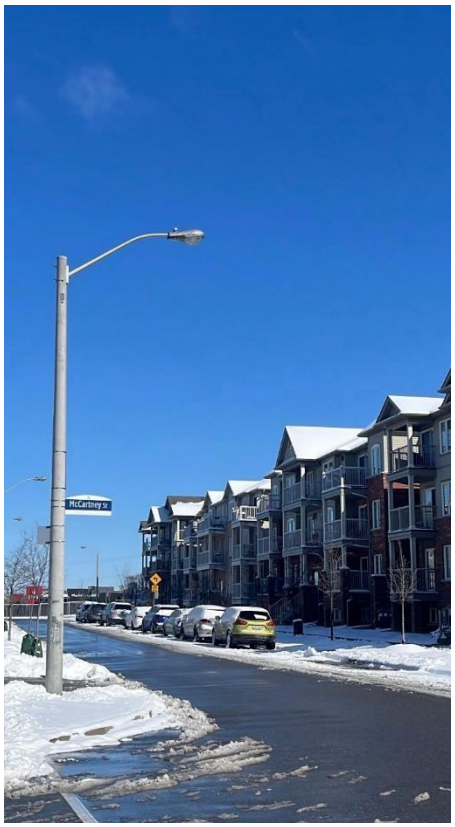
分からないことは分からないとはっきり言うなど発言を怖がらないこと、周りを変に気にして遠慮し過ぎないことができるようになりました。週末に一人でイギリス国外を旅行したことにより、行く国の下調べを入念にし、安全に旅行ができるよう考えるなど、危機管理能力が身に着いたと思います。電車が急に運休するなどのハプニングも乗り越えられたという経験から自分に自信をつけることができました。

【感想】

やりたいと思ったことを積極的に取り組んだことで、問題解決能力や対応力を身につけ、自信を持つことができ、自己成長に繋がったと感じています。

今後はこの留学経験を活かし、英語の勉強を続けてさらに学びを深めたいと思います。TOEIC や IELTS などの点数をあげることも目指しています。

ヨーク大学　2024年3月～2024年4月/日本文化学科3年



自分で判断する力が以前よりかなり身につきました。これからも自分で考え、行動し、挑戦していきたいです！

【学習面】

リモート授業が週２回、対面授業が週３回でした。リモート授業は、教科書の内容のペアワークが基本で、対面授業は、ディスカッション+Vlog 撮影・動画作成でした。

対面授業では、ほとんど毎回小テストがあり、小テストで満点を取るという気持ちが勉強のモチベーションになっていました。

授業終了後は、クラスメイトと一緒に課題を行い、学校で課題を済ませるようにしていました。週末の課題は特に多かったです。

Vlog 作成では、休日にダウンタウンのカフェで店員さんから撮影許可をもらい、事前に用意したカフェに関する質問をする動画を作成しました。

【生活面】

公共交通機関が予定通り来ないことや、乗客で満席の場合は乗客を増やさないためにバス停に停まらず通り過ぎることも頻繁にあったので、早めに家を出て、予定より早く行動することを意識していました。

ホームステイ先は 2 家族にお世話になりました。最初のホストファミリーとは休日に一緒に外出することが多く、夜もリビングで一緒の時間を過ごしていました。2 軒目のホストファミリーとは、一緒に外出することはあまりありませんでしたが、食事をする際にコミュニケーションを取ることが多かったです。

ホームステイを経験して、最も慣れなかったことは食事です。2 家族ともフィリピンの家庭料理で、基本的に肉がメインで魚を食べる機会がほとんどありませんでした。日本食が恋しくなり、持参したみそ汁やカップ麺、お菓子をよく食べていました。

【安全面】

マリファナが身近にあることを感じる場面がありました。人とすれ違った時や人通りの少ない場所でマリファナの残り香が漂っていたことがあり、私にとっては不快な匂いでした。

電車では、乗務員にお金を無心する年配の方が毎回必ずいました。ホームレスのような人も多く、電車内で男性に絡まれた友人もいたので、暗い時間帯に 1 人で利用しないように心がけていました。

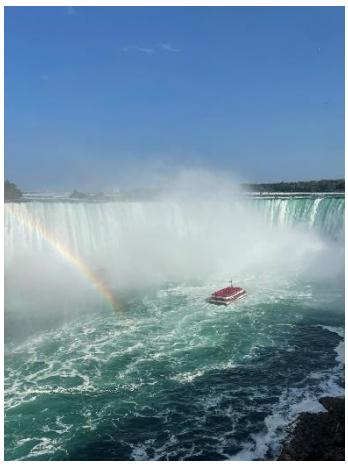
【感想】

最初は初めての異国の地で、右も左も分からず、不安が大きかったため心が折れそうでしたが、クラスメイトの中国人の学生に声をかけ、毎日の授業で会話が増え、休日も一緒に過ごすようになりました。彼女との会話や、授業中の発言回数を増やしたことで、他の学生とのコミュニケーションも広がりました。

周りのサポートがありながらも、自分が思っていた以上に新しい環境で生活していくことができました。留学で身につけた判断能力を活かして、どんなことでも自分で考えて、行動し、挑戦していきたいです。

ヨーク大学

2023年5月～2023年8月/英語学科3年



留学を経験して、より多くの国の人と話せるようになりたいと思うようになり、英語学習への意欲も高まりました。

【学習面】

最初の2か月はAP5のクラスだった。毎日文法の課題が出て、週末にはリーディングの課題が出ていたが、量は多くなかったため、予習・復習にも時間を当てることができた。クラスでは、分かっているつもりでも深いところまでは理解していない文法が多くあったことに気づくことができ、勉強しなおすことができた。

次の AP6 のクラスでは、課題や授業内容のレベルが一気に難しくなったと感じた。外国人のクラスメイトが積極的に話しているのに圧倒され、自分から発言することが減ってしまったのが反省点。専門的な用語が出てきたりしたので、論文を探したり、単語を調べたりするのに苦労した。環境問題や社会問題に関するトピックが取り上げられていたので、英語だけでなく、世界やカナダの問題についても知り、考えることができた。

【生活面】

カナダには様々な人がいたが、人種が違っていても差別などはなく、お互いの文化を尊重して暮らしていた。そのため、親切な人が多かった。

私のホームステイ先はホストマザー1 人だけだったので、友達のように仲良くすることができ、週末はホストマザーの親戚の家で食事をしたり、買い物に行ったり、湖でカヤックをしたりした。

【安全面】

荷物を放置しない、夜に 1 人で行動しない、様子がおかしい人を見かけたら近づかない、ということに注意した。日本と違って、カナダにはホームレスやクスリを使用している人が多いため、夜に出歩かないことを心掛けた。昼に出かける時も、ダウンタウンの周辺にはホームレスの人が多いため、友達と離れないようにした。

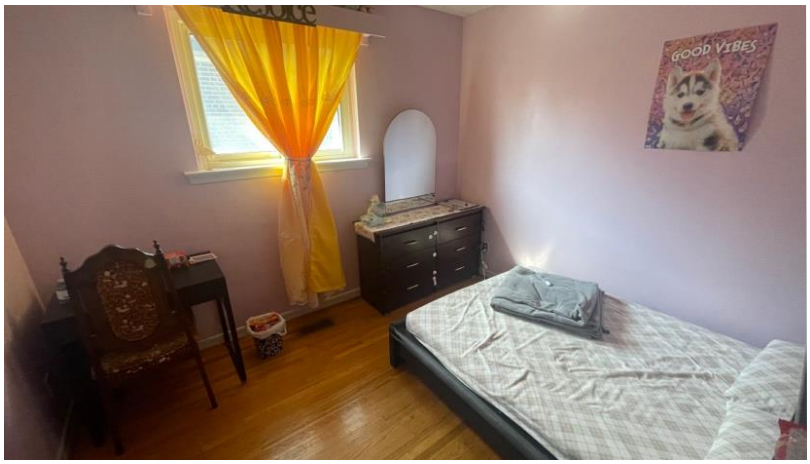
【感想】

英語だけでなく、人との関わり方や異文化、カナダに住んでいる人々の生活なども学ぶことができた。また、日本の良いところや、日本がどのくらい他の国で知られているかなども知ることができ、日本の良さを再確認するいい機会にもなった。

今までの私は初対面の人と積極的に話をしたり、自分の意見を言ったりすることはなかったが、以前より積極的になったと思う。人と関わることがあまり好きではなかったが、将来的には人と関わるような仕事がしたいと思うようになった。

ヨーク大学

2023年5月～2023年8月/英語学科3年



現地での初めての経験、驚き、学びもたくさんあったが、日本の良さや不足している点にも気づくことができました。

【学習面】

私が参加したプログラムでは、週6日のうち3日間は対面授業で、2日間はオンライン授業だった。授業時間はクラスによって午前と午後に分かれていて、私は2ターンとも午前授業のクラスだったので、午後は友達と課題をこなしたり、遊びに出かけたりしていた。

授業内容は、英語の基礎を学ぶ内容がほとんどで Listening, Writing, Reading, Speaking すべての技能を満遍なく学ぶことができた。2週間に1度、授業内で Writing のテストがあり、先生から出されたお題に関する自分の意見や考えを200文字以上で書くというものだった。また、1か月に1回程度、5～10分の個人プレゼンがあったので、それを通して、話し方や質疑応答など Speaking の基礎について学ぶことができた。

授業とは別に、教科書課題や、週2回の Student Reader との会話を行わなければならなかったので課題量は多かったと思う。

【生活面】

私のホストファミリーはフィリピン人家族で、小学生の女の子が3人いるとても賑やかな家庭だった。英語を話すチャンスが学校と家の中がほとんどだったので、時間がある時はリビングに行って、ホストマザーと話をしたり、子供たちと一緒に遊んだりしていた。

私が留学した期間は、ちょうど春から夏の終わりの期間だったので、最初の1か月程は長袖に羽織があれば十分だったが、6月中旬から徐々に暑くなっていった。日本と比べて湿度が低いので、日差しは強いが比較的過ごしやすかった。

交通面については、バスと電車が頻繁に通っているので、とても移動しやすかった。1度乗車すると、2時間以内はバスト電車が乗り放題だったので、とても便利だと思った。

【安全面】

実際に現地に行って感じたことは、日本よりも断然ホームレスが多いということ。地下鉄に乗れば高確率で遭遇するし、街の方に行けば歩道に座り込んでいる人や、そこで寝泊まりをしている人もたくさんいた。お金を要求してくるので、目を合わせず、近くを通らないように意識した。常に日本ではないということを気に留めて生活しなければならないと感じた。

【感想】

留学することは簡単ではないけれど、日本では絶対にできない経験ができるし、自分自身の英語に関するモチベーションも上げることができたので、心の底から留学に行ってよかったと感じている。

ヨーク大学

2022年9月～2023年2月/英語学科3年

もっとも留学してよかったと感じたことは、人々と関わっていく中で、私の中での色んな国のイメージが変わったことです。

【学習面】

Speaking と Writing の成長を感じることができた。私は、AP7、AP8&9、AP9 の 3 つのクラスを留学中に受けました。

AP7 のクラスでは Speaking に重点を置いた授業内容が多かったため、このクラスでは Speaking 力の向上を感じました。

AP8&9 のクラスでは、Writing に重点を置いた授業だった。エッセイの中で使うことができる文法や、アカデミックな接続の言葉、文章の言い回しなどを学んだ。リサーチペーパーの作成には信頼できる参考資料を探す必要があったため、どのような資料が信頼できるのかという情報リテラシーも学ぶことができました。

AP9 のクラスでは、よりアカデミックなエッセイが書けるようになるための授業が多かった。よりフォーマルな文章にするために多くのアドバイスをしてもらった。クラスの人数が少なかったため、樹朝中に発言できる機会も多かった。

【交流】

一つの国に様々な国籍の人が集まるのはカナダの特徴であり、魅力であると考えます。そのため、様々な国の料理を食べることができ、韓国料理、中華料理、リビア料理、メキシコ料理、フィリピン料理などに挑戦した。世界各国の文化に触れるたびに、その国に興味を持ち、そして訪れてみたいと思いました。

カナダでは英語を共通語として使用していても、人によってそれぞれに英語のアクセントがあった。同じ言語を話していても、それぞれの母語の特徴が出てきて魅力的だと感じたが、それにより聞きなれない英語のリスニングが難しいこともありました。

【感想】

何をするにも英語を話す必要があったので、生活の中からも英語を学ぶことができました。留学を経て、ためらうことが減り、質問をすることができるようになりました。質問をしたことをきっかけに、新しい友達ができたこともあったので、成長することができてよかったと感じています。

いつか海外でまた生活したいと考えているし、様々な国の友達もできたので、友達の国にも訪れたいという夢もできました。

成長や新しい目標ができた留学を経験することができてよかったです。

ｲﾝﾃﾞｨｱﾅ大学ｲﾝﾃﾞｨｱﾅﾎﾟﾘｽ校 2025 年 3 月（8 週間）/英語学科 4 年

英語を学習しに行きましたが、クラスメイトの母国語、文化、国の情勢、経済についても学ぶことができました！

【学習面】

プレイスメントテストを受けて、スコアに応じて7レベルに分けられます。内容は Listening, Grammer, Vocabulary, Reading が1時間、Writing が45分間でした。私はレベル6に振り分けられ主な英語スキルを 3 授業の「Reading & Writing」、「Listening & Speaking」、「Structure in Use」に分けて学習しました。スキル別に学習することにより私が苦手なのはリスニングとリーディングであることを知りました。これを知ったことで、苦手な部分にアプローチすることができるようになり学習効率が上がりました。

リスニング力の向上を感じたのは復路の空港アナウンスを聞いた時です。往路では集中すればアナウンスを少しだけ理解できる程度だったのですが、復路ではイヤホンで音楽を聴いていてもアナウンスの内容を大まかに理解できたことに驚きました。

PIE の学生向けに毎週火曜日と水曜日は無料個別指導の枠が設けられていました。私は日常で疑問に感じた英語の使い方や会話練習のために利用していました。

【生活面】

ホームステイでは、ホストマザー、ホストメイト、猫、犬と暮らしていました。ホストメイトはチリ出身の女性で、家に帰っても会話の練習やお互いの文化について教え合うことができ、良い機会となりました。また、ハウスメイトは外出が好きな方だったので、週末はよく一緒に出かけていました。

大学では、様々なイベントがあり、服のテーマが指定された Spirit Week や出身国・地域に分かれて文化や食べ物、民族衣装などを紹介する International Celebration などがありました。

【その他】

留学費用はおおよそ120万円ほどかかりましたが、活水女子大学から奨学金をいただき、費用の一部に当てました。

滞在中にシカゴ旅行にも行きました。インディアナポリスから高速バスで約 4 時間の距離でした。ダウンタウンを中心に回り、ボートツアーへの参加や街を歩いて買い物を楽しみました。食事もハンバーガーやメキシコ料理、シカゴピザを楽しみました。インディアナポリスは日によっては初夏の暑さのような日もあったにも関わらず、シカゴは風が強く非常に寒かったです。

PIA

2022 年 9 月～2023 年 2 月/英語学科 3 年

たくさん泣いたりもしたけど、そのぶん強くなりました！帰る時は寂しさでたくさん泣きました。

【プログラム】

最初の 2 か月半は英語の授業と Service Learning（Stage 1）があり、2 週間ほどの休みの後 Service Learning（Stage 2）が始まり、再度 2 週間ほどの休みの後 Service Larning（Stage 3）がありました。

英語の授業では、先生がとてもクリエイティブな方だったので、英語科教育法を学ぶ私にとっては、英語だけではなく、授業に関することも一緒に学んでいけました。

Service Learning の Stage 1 では、アメリカの履歴書の書き方、ビジネスメールの書き方、面接など、アメリカで仕事をするために必要なことを学びました。

Stage 2 では、アメリカの文化やボランティアとは何かについて学びました。そして、自分のボランティア先を知るという目的でプレゼンテーションも行いました。授業日数は長くはありませんでしたが、学ぶことがたくさんありとても楽しかったです。

Stage 3 では実際にボランティア先で活動をします。ボランティア先は 2～3 か所選ぶことができ、6 週間で合計 116 時間のボランティアを行います。私は、International School、Playschool、High School でボランティアをしました。

【生活面】

ホームステイ先には、ホストマザーとサウジアラビア人のルームメイトと猫がいました。ホストマザーがベジタリアンだったので、最初は不安でしたが、最後はすっかり慣れて、マザーのご飯が大好きになっていました。マザーとルームメイトの 3 人で話をしたり、買い物に行ったり、料理をしたり、とても楽しかったです。

10 月から 6 月までは雨期なので、そのせいか疲れやすかったり、気分が沈んだりしました。

【安全面】

治安はアメリカの中ではよい方かもしれませんが、日本と比べると怖いと感じる場面はよくありました。ホームレスからお金を要求されたり、マザーの車の窓が割られたこともありました。

【感想】

書ききれないほどの多くの経験をしてきました。留学の目標にしていた、英語力を伸ばすこと、挑戦すること、教育現場を見ること、全て達成できて心残りはありません。また、英語に関心を持ってもらい、異文化に理解がある子供を育てられる教員になるという新しい目標もできました。留学して強くなったので、きっとできると信じています。これからも挑戦を辞めることなく頑張っていきます。

PIA

2022 年 9 月～2023 年 2 月/英語学科 3 年

この留学を通じて、自分らしく生きること、本当にしたいことをじっくりと考えることの大切さを学びました。

【プログラム】

18 週間（4 か月半）のプログラムに参加しました。

始めの 10 週間（1 ターム）は、英語の授業とサービスラーニングの授業がありました。英語の授業は、Grammer、Reading、Writing、Listening & Speaking がありました。サービスラーニングの授業では、ボランティア先を決め、ボランティア先に送るカバーレターと履歴書を作成しました。ボランティア先は、迷ってしまうほど様々なジャンルがあったので、とてもワクワクしながら決めたのを覚えています。履歴書をボランティア先に送り、その後は面接を受けに行きました。面接を受けるためにボランティア先に向かっている時間が留学期間中で一番緊張していた瞬間でした。

始めの 10 週間が終わり、ここから 2 週間は完全にボランティアについての授業だけになります。ボランティアについて、日常会話のフレーズ、アメリカの文化について学び、自分がこれから行くボランティア先がどんなところなのかを発表したりもしました。

最後の 6 週間は、ついにボランティア活動です。基本的には、自分が決めた 2 つのボランティア先で 1 週間に 20 時間以上活動し、終了時に合計 120 時間以上の活動をしていればプログラムは終了となります。毎週末に 1 週間の活動についてのレポートを提出していましたが、それ以外は学校に行かず、ひたすらボランティア活動をしていました。ボランティア先には日本語が通じる人が 1 人もおらず、自分にとって毎日大きなチャレンジばかりでしたが、こんな経験は本当に貴重なので、一生懸命色んな人に話しかけて会話を楽しみました。

【生活面】

行くまでは色んな不便を想像していましたが、実施に行ってみると、そこまで不便を感じることはありませんでした。ただ、アメリカ人の食への意識が日本と少し違うところがあり驚きました。食べ物の扱い方（無駄にしない）、食事の仕方などから、アメリカ人は日本人ほど食に重きを置いていないようにおもいました。文化の違いで驚くこともありましたが、「そういうものなのかー。」ぐらいの気持ちで受け止めれば、悩んだりすることはなかったです。

【安全面】

ポートランドで気をつけることは、とにかくホームレスの人たちだと思います。別の州から来たアメリカ人も驚くほど、ポートランドにはホームレスが多く、大きな問題のようです。ほとんどの人は何もしてきませんが、クスリをやっていて行動の予想がつかない人もいるので、行動がおかしい人がいたら、遠回りをしてでも避けて通っていました。

【感想】

留学生活を通して、新しい考えや、やってみたいことがこれまで以上に明確になった気がします。留学で得たスキルを精一杯生かして、自分の意見や考えを自信をもって言える人になりたいです。

IUPUI

2022 年 8 月～2023 年 5 月/英語学科 4 年

この経験を生かして、自分のコンフォートゾーンを抜け出し、自分をより成長させられることに挑戦していきたい。

【学習面】

Fall Ⅰ と 2 は PIE の Program of Intensive English を受講した。初日のテストでレベル分けが行われ、レベル 4 からのスタートとなった。朝 8:50 に最初のクラスが始まり、最後のクラスは 2 時過ぎに終わるスケジュールだった。IUPUI の正規の授業を受けるためには、PIE のレベル 5 を修了する必要があったため、Fall 2 までにレベル 5 を修了し、Spring Ⅰ からは IUPUI の正規の授業を受け始めた。

IUPUI の正規の授業では、Fundamental of Speech Communication、Mass Media and Contemporary Society、Multicultural Education and Global Awareness、Religion and Culture、Yoga を履修した。

【生活面】

Fall の間は、ホームステイをしていた。特に印象に残っているのは、Thanksgiving と Christmas である。Thanksgiving ではホストファミリーの実家に行き、親戚たちと食事を囲んだ。Thanksgiving に向けてスーパーなどの商品が変わっていくのを見るのも楽しかった。Christmas はただの休日として考えているのではなく、イエスキリストのことをもう一度考え、学びなおす機会だということを知った。

Spring からは International House という学生寮に移った。ここでは世界中から来ている人と知り合うことができ、各国の料理を振る舞い、とても楽しく異文化交流ができた。

授業外では、たくさんのイベントに参加するように心がけて、誘われたら基本的には参加するようにしていた。

【安全面】

夜一人で歩くことができないのはとても不便だった。キャンパスに夜遅くまで残った場合は、寮まで送ってくれるシステムをよく利用していた。ホームステイ中はバス通学していたが、バスの中も治安が必ずしも安全とは言い切れなかった。

【感想】

この留学を通して、今まで自分がどれだけコンフォートゾーンで生きていたのかを実感した。また、現地の大学生たちをみて、自分よりも自立していて、自分の人生を自分事としてきちんと考えていると感じた。もっと自分中心に物事を考えて、行動したり、プランを立てたりしていいのだということを学んだ。

サザンクロス大学 22年7月～23年2月/英語学科4年

英語や異文化に関してはもちろんのこと、生き方や自分自身についての理解が深まったように思います。

【学習面】

SCU の語学学校に 10 週間通い、その後、大学の正規授業を 3 セッション受講しました。

SCU の語学学校で特についた力は、ライティング力です。特にリファレンス（参考文献）の書き方やアカデミックなライティングを日本で学んだことがなかった私にとっては難しく感じることもありましたが、SCU の語学学校でこれらのことを学んでいたおかげで、大学でのレポートや課題で困ることがありませんでした。

大学の正規授業の雰囲気はとても良く、発言しやすい空間でした。クラスサイズも 20 人程度の少人数クラスでした。

【生活面】

私のホームステイ先には、アメリカ人のホストメイトがいました。とても親切で、よく映画を一緒に見たり、出かけたりしていました。文化の違いから衝突をしたこともありますが、衝突後はお互いの文化を尊重しあい、さらに良い関係になりました。

また、オーストラリアでは夏にお正月を迎えるので、お正月の過ごし方は、多くの人がビーチにマットや椅子、ピクニックボックスを持ち寄って、家族で過ごしていました。花火も色んな所で打ち上げられていて、気候の違いによる過ごし方の違いも体験できました。

【オーストラリアのビーチ】

オーストラリアのビーチの綺麗さにすごく驚きました。人がいない時間に清掃がされていたり、ボランティアによる清掃活動により美しさが保たれているようで、私もボランティアとしてビーチ清掃に参加しました。

【感想】

オーストラリアでは「生きるために仕事をする」のではなく、「仕事を楽しんでいる」人が多くいるように感じました。そして、ホストマザーからクリスマスプレゼントとしていただいた本が「Girl Boss」という本でファッションブランドをオンラインで成功させた話でした。この本とオーストラリアでの生活を通して、「自分のファッションブランドを立ち上げる」という夢がさらに明確になりました。

また、オーストラリアでは「自分自身を愛している」人が多くいるように感じ、自分で自分のことを肯定的に見られるようになりました。おかげで、ストレスが少なくなったせいか、悩んでいた肌荒れもなくなりました。